

田植えまでの管理

田植え5～7日前から極端な低温や霜が降りるとき以外は、日中・夜間問わず全面開放し、外気に慣らしましょう。
ハウスやトンネルを閉め切っていると苗の徒長につながるほか、過湿による苗立枯病発生の要因になります。

病害虫防除

■イネドロオウムシ・イネミズゾウムシ・いもち病対策

例年イネドロオウムシ・イネミズゾウムシの発生が心配される場合は、箱施用殺虫剤を使用しましょう。
補植用苗を放置したままにするといもち病の発生源となるので、補植が終わったら直ちに処分しましょう。

薬剤名	使用量 (1箱当り)	使用時期	イネドロ オウムシ	イネミズ ゾウムシ	いもち病
ブイゲットバイソン (粒)	50g	移植時	○	○	○
パダン (粒)	80g	移植時	○	○	—



イネミズゾウム

田植え～活着期の管理

老化苗の移植は根張りが悪く、後に胴割粒発生を助長します

- ①苗の葉齢 3.5 葉を目安に、生育状況を見て適期に田植えを行いましょ。
 - ※中苗で 4.0 葉期以上の老化苗は活着が進まず、生育量・収量に影響を及ぼすので、田植えが遅くならないように気をつけて下さい。
- ②田植えは天気の良い日を選んで行って下さい。植付けの深さは 3cm 程度にしましょう。
深植えすると活着や分けつの発生が抑制されます。
- ③田植え後は生育を促進するため、できるだけ水温の上昇を図りましょう。
高温の日は 2～3cm 程度の浅水にし、低温の日は苗がかん水しない深さ 4～5cm 程度の深水で保温しましょう。

除草剤散布

除草剤の効果を高めるには、代かきが重要です。代かきは丁寧に・均平に行いましょう

除草剤をうまく効かせるポイント

- 土の表面が水面から出ていると、処理層が作られず、十分な効果が得られません。代かきを丁寧に、田面を均平にならしめましょう。
- 雑草は代かきしてから約 10 日間で発生してきます。登録内容の使用時期で早めに散布しましょう。
- 毎年、残草が多い水田では初期・中期剤の体系処理をお勧めします。
- 除草剤散布後は、やや深めの水位 5cm 以上を最低 3 日間は保ち、散布後 7 日間は落水やかけ流しは行わないようにしましょう。
- 水持ちの悪い水田では粒剤を選択しましょう。

初・中期剤処理体系 (前年に雑草が多かった圃場)

初期剤	エリジャン乳剤	300ml/10a	植代後～田植7日前 または田植直後～5日後 まで (ノビエ1.0葉期まで)	中期剤	カソト・ソヨットSジ・ヤソホ MX	500g/10a	田植後14日～ (ノビエ3.5葉期まで)
	ソルネット粒剤	1kg/10a			レプラス1キロ粒剤	1kg/10a	田植後14日～ (ノビエ4.0葉期まで)
	ショキニー250グラム	250g/10a			ツイゲキ豆つぶ 250	250g/10a	田植後14日(稲5葉期)～ (ノビエ4.0葉期まで)

一発処理体系 (前年に雑草の発生が特に目立たなかった水田)

※青天の霹靂はゼータタイガーのみ使用可能です。

4成分	トップガンR1 〇〇粒剤	1kg/10a	田植直後～30日	3成分	ゼータタイガー1 〇〇粒剤	1kg/10a	田植直後～30日
	トップガンRフロアブル	500ml/10a	田植直後～30日		ゼータタイガーフロアブル	500ml/10a	田植後3日～30日
	トップガンRジャンボ	250g/10a	田植後3日～30日		ゼータタイガージャンボ	300g/10a	田植後3日～30日

4成分	シンズイズ1 〇〇粒剤	1kg/10a	田植直後～30日	3成分	ベッカク1 〇〇粒剤	1kg/10a	田植直後～30日
	シンズイズフロアブル	500ml/10a	田植後3日～30日		ベッカク豆つぶ250	250g/10a	田植後3日～30日
	シンズイズ豆つぶ250	250g/10a	田植後3日～30日		ベッカクジャンボ	250g/10a	田植後3日～30日
	シンズイズジャンボ	250g/10a	田植後3日～30日		デオーレ顆粒	80g/10a	田植後3日～30日